

地域医療協働センター 平成 29 年度第 2 回運営会議

日 時：平成 30 年 3 月 16 日（金）14：00－15：00

場 所：医学部基礎研究棟 1 階 研修・打合せ室

出席者：医学部 医学科 前田隆浩、安部恵代、玉井慎美、川尻真也

保健学科 大石和代、大西眞由美

歯学部 齋藤俊行、吉村篤利、北村雅保

薬学部 川上茂、大山要

総務課企画担当 西林佳夫

事務補佐員 今村真希

●ホームページについて

センター長より資料に基づき、ホームページの説明があった。

ホームページ開設に伴い、コンテンツとして各教室の業績を調査することになった。

業績については、下記の通り意見が出された。

- 外部資金は、地域医療協働センターの活動内容としてマッチしない内容が多いため、掲載項目に追加しない事とした。
- 業績を掲載する基準は、少しでも地域医療協働センターの活動に関連しているもの、あるいは兼務教員の先生が含まれているものとし、できるだけ含める方向で検討することとする。
- 今後の論文の所属に「地域医療協働センター（collaboration center for community medicine）」を追加した方が業績の整理をしやすいのではないかという意見が出たが、厳密な運用は控えて教員の自己申告という事になった。
- 学外を地域と規定することとし、海外のフィールドも業績に掲載することとした。
- 平成 29 年度以前の論文についても、調査票に追加し、地域医療に強く関連する内容は記載することとした。

データベースの利用申請のバナーを追加する。

上記の作業を完了させ、3 月中に開設することとした。

●活動報告について

センター長より平成 30 年 1 月 20 日に開催したキックオフフォーラムについて報告があった。

口腔保健学 北村先生より平成 30 年 2 月 17 日に開催した歯学系 公開講演会・ミニシンポジウムについて報告があった。

センター長より学外教育の実績について下記の通り報告があった。

- 平成 29 年度 臨床実習 離島・地域病院実習

- 平成 29 年度 臨床実習 離島医療・総合診療・保健実習（医学部保健学科・歯学部・薬学部）
- 平成 29 年度 他大学実習
- 平成 29 年度 長崎地域医療セミナー in GOTO

上記実績に加えて、下記の大学病院以外の実習実績を追加することとなった。

- 歯学部 離島歯科保健医療サマースクール
- 薬学部 病院薬局実習
- 保健学科 保健師実習、小児看護学実習、老年看護学実習、成人看護学実習、精神看護学実習、在宅看護学実習、国際保健学実習、統合ケア実習、理学療法学専攻及び作業療法学専攻の学外実習、助産師養成コース、がん看護専門看護師養成コース等

●平成 29 年度収支報告について

センター長より平成 29 年度機能強化経費の収支報告があった。

NanoDrop 購入について説明があった。地域医療協働センターの立ち上げの特別予算(100 万円以内)が付いて、NanoDrop (¥842,400) を購入したが、¥592,400 は特別予算で支払い、¥250,000 は地域医療学の教室経費で支払った事を報告した。

口腔保健学 北村先生より歯学部割当分の平成 29 年度機能強化経費の収支報告があった。歯学部の学生の実習旅費が多くを占めていたが、今後も本年度と同様に使用するかは検討する。

●平成 30 年度予算計画について

センター長より平成 30 年度の予算計画について説明があった。

平成 29 年度文科省より交付された 600 万（使い切り）+大学予算 1,400 万（繰越可能）合計 2000 万円を 5 年間で使用する計画の説明があった。また資料に基づき、平成 30 年度～平成 33 年度の学内予算（総額 20,000 千円）の計画を説明した。平成 31 年に予定しているデータ移行費（800 万円）については、この学内予算で執行する計画である旨が説明された。運営費交付金については、交付が決定した後に予算計画を検討することとした。

●今後のイベントについて

地域医療協働センター設立の目的は 3 学部 4 学科で活動することなので、3 学部 4 学科で計画されているイベントには、できるだけ共催等で参加する方針となった。

イベントへの予算支出については、機能強化経費や運営費交付金を使用する予定とし、その都度、関係者と相談することになった。

●データベース利用について

地域疫学研究（五島コホートや佐々町コホート）に参加していた教員は、異動後もデータを使用できるが、できるだけ客員研究員や客員教員として長崎大学との関係を維持してもらいたい。

データの使用については、研究計画を提出してもらった上で審査を受けてもらう必要がある。この審査は、研究者間で研究内容が重複することを防ぐことを主な目的としており、基本的にデータの活用は歓迎する方針である。

保存サンプルの使用に関しても、研究計画を提出してもらった上で審査を受けてもらう必要があるが、ケースによっては厳しいことが予想される。

●連絡事項

次回の運営会議は5月を予定する。

研究会は年2回ほど定期的に行う予定である。